

インドネシア活動報告⑬ ~最終報告~

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(9/17~10/16)の活動】

- ・指導案作成 ・「環境」授業(見学5回、実施2回) ・ジャカルタお掃除クラブ活動(1回)
- ・フォローアップセミナー、環境ワークショップ参加 ・日本語教室(7回)

◎「環境」授業

今月は、10月2週目から学期の中間テストがあるということで授業の実施は2回だけとなった。今回行った2回の授業は、板書が多い授業だったので、生徒たちが騒ぐことがなく落ち着いて授業を行うことができた。また、テスト前の週にこれまで自身が行ってきた授業に対する評価アンケートを実施した。きちんと授業内容を理解し、それを実際に行動に移せたか調査した結果、8割以上の生徒がポイ捨てをしなくなったり、家で分別するようになったなど、行動にまで移せたことを知ることができた。

◎フォローアップ研修、環境ワークショップへの参加

フォローアップセミナーは9月に日本に研修に行った先生を対象に協力NGO主催で実施されたもので、環境ワークショップは配属先主催で小学校の校長向け、先生向け、保護者向け、更に公立・私立で全て日程を分け、計6日間実施されたものである。この中で私は先生向けに指導案の作り方について話をさせてもらった。



環境ワークショップで先生向けに活動紹介をしている様子

◎日本語教室

10月16日、ヒカリ小学校にて最後の日本語教室を行った。最後の授業は折り鶴をみんなで折り、日本茶とせんべいを振る舞った。インドネシアでは緑茶に砂糖を大量に入れる人が多いが、日本のスタイルを知ってもらう為に今回砂糖は用意せずそのまま飲んでもらった。苦いと言いながらも2杯目を飲んでくれる生徒が多く、楽しんでくれていた様子が伝わり嬉しかった。



【2年間の活動を終えて】

10月16日に南タンゲラン市での活動が終了し、2年間の協力隊としての活動を終えた。17日からは首都ジャカルタにてJICAへの最終報告会や関係省庁、大使館への表敬訪問をし、来週帰国となる。

この2年間は良くも悪くも日本では決して体験できないような様々な経験をすることができた。

振り返ると活動については圧倒的に「つらい」と感じる事が多い日々であった。ロンボクではなかなか思うような活動を行うことができず、やっと活動が軌道に乗ってきたと思ったところで任地変更となったり、新しい配属先では専門外である教師向けの指導案作成がメインの活動となり、日本やインドネシアの小学校教育がどのようになっているのか調べることから始まった。それまでロンボクで行ってきたような活動ができないことは精神的に大変苦しいものであった。

しかし、そのような逆境の中でも2年間をやり通せたことは今後、自身の強みになると信じている。

もちろん、辛いことだけではなく、楽しいことも多くあった。休日にインドネシア各地へ旅行に行ったり、南タン



2年かけて好きになれたドリアン



2年間で最も綺麗な海と感じたカリムンジャワ



スマトラ島にて自然の中で生活している象と触れ合う経験もできた

ゲランに移動してからはよくジャカルタへ行き、首都近郊の隊員と会って近況報告をし合うことが多かった。また、「ジャカルタお掃除クラブ」のような団体に入って活動し、外部の人と交流を持つことで、新たな出会いがあり、インドネシアのことをより幅広く知る機会を得たり、インドネシアで研究をしている学生に会ったりすることができた。

帰国後は、会社に戻り、また日本での生活を送ることになる。このインドネシアでの経験をどのように活かしていけるのかは模索しながら働いていくことになると思うが、まずはこの2年間で得た経験を日本で伝えていくと

いうことから始めていきたいと考えている。

最後に、2年もの間、私の活動を見守り、支えて下さったマジオネットの皆さまと家族、友人に心から感謝の意を表します。ありがとうございました。



ヒカリ小学校の生徒からもらった沢山の手紙